

表 B1. 年齢カテゴリーごとの分布

	度数	有効パーセント	累積パーセント
0～3歳	155	1.74	1.74
4～10歳	62	0.69	2.43
10代	110	1.23	3.67
20代	230	2.58	6.24
30代	314	3.52	9.76
40代	518	5.81	15.57
50代	1392	15.60	31.17
60代	2078	23.29	54.47
70代	2710	30.38	84.84
80代	1199	13.44	98.28
90代	152	1.70	99.99
100歳以上	1	0.01	100
欠損値	7		
合計	8928		

表 B2. 入室の原因となった主たる病名 ICD-10（上位抜粋）

ICD-10	病名	度数	有効パーセント	累積パーセント
I21	急性心筋梗塞	623	7.19	7.19
I71	大動脈瘤及び解離	488	5.63	12.83
I20	狭心症	474	5.47	18.30
I61	脳内出血	366	4.23	22.53
I50	心不全	357	4.12	26.65
I60	くも膜下出血	293	3.38	30.03
I63	脳梗塞	267	3.08	33.11
C18	結腸の悪性新生物	259	2.99	36.10
C34	気管支及び肺の悪性新生物	224	2.59	38.69
C16	胃の悪性新生物	222	2.56	41.25

表 B3. APACHE II スコアの分布

	度数	有効パーセント	累積パーセント
0～4	0	0	0
5～9	6	0.3	0.3
10～14	51	2.8	3.1
15～19	144	7.8	10.9
20～24	336	18.3	29.2
25～29	382	20.8	50.1
30～34	292	15.9	66.0
35 以上	625	34.0	100
欠損値	859		
合計	2695		

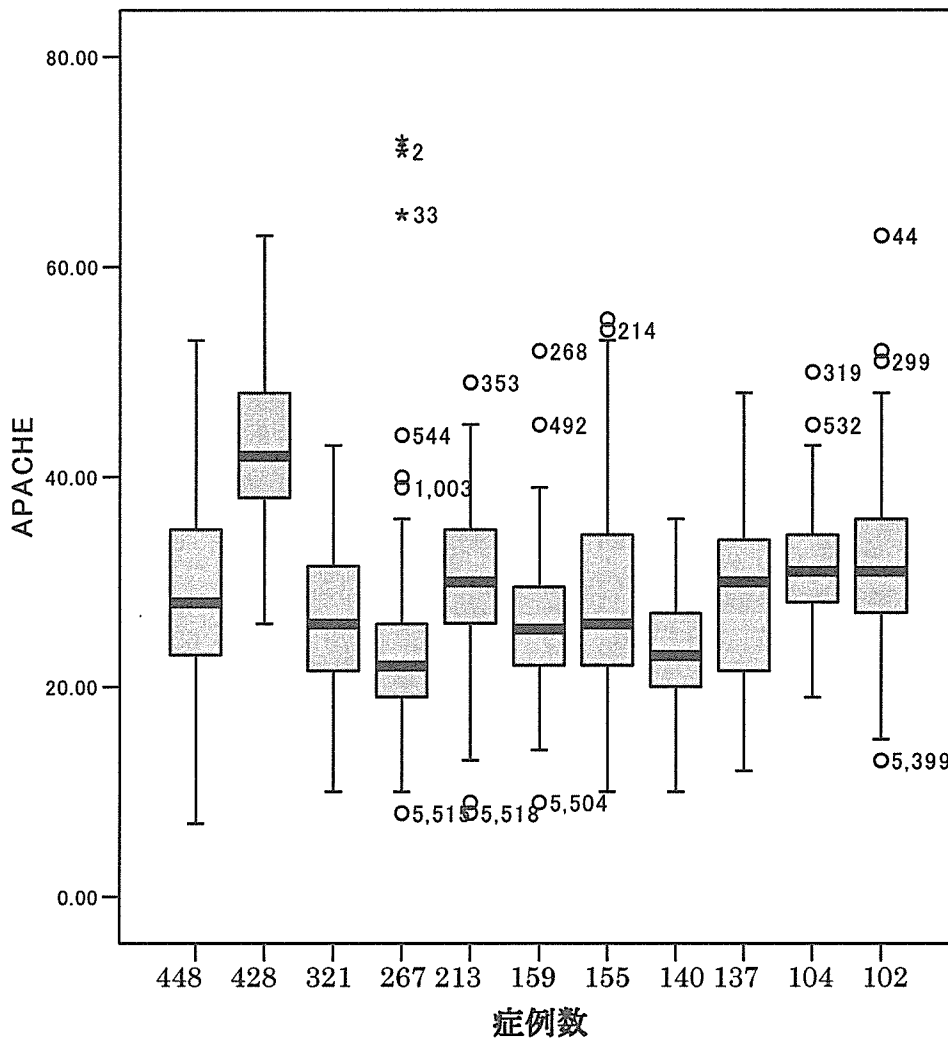


図 B1. 症例数 100 例以上の施設における APACHE II スコアの状況

表 B4. 退室時転帰の状況

	度数	有効パーセント	累積パーセント
軽快	6417	83.5	83.5
不変	719	9.4	92.9
悪化	51	0.7	93.5
死亡	496	6.5	100
欠損値	1245		
合計	8928		

表 B5. 入室時GCSと退室時GCS

		入室時GCS													合計
		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
退室時GCS	3	221	23	13	11	11	5	15	14	4	19	10	9	57	412
	4	13	8	0	3	1	0	1	1	1	1	1	1	4	35
	5	14	0	9	2	3	0	2	1	1	1	0	0	0	33
	6	14	3	4	22	7	2	1	2	1	2	0	2	9	69
	7	10	3	0	7	18	9	3	0	2	0	0	0	4	56
	8	10	2	3	6	3	16	2	2	2	1	0	2	3	52
	9	11	2	1	6	8	5	10	9	5	4	1	2	5	69
	10	5	3	2	9	7	2	8	24	3	5	1	0	8	77
	11	22	1	4	6	11	9	11	12	31	4	8	5	20	144
	12	6	3	4	4	5	3	3	10	8	27	12	5	8	98
	13	21	5	2	2	4	3	6	7	1	15	51	17	16	150
	14	47	9	6	8	15	9	14	19	16	21	40	199	100	503
	15	349	31	35	40	62	43	52	85	74	93	156	436	3373	4829
	合計	743	93	83	126	155	106	128	186	149	193	280	678	3607	6527

表 B6. 年齢カテゴリーごとの分布

	度数	有効パーセント	累積パーセント
0～3歳	768	6.06	6.06
4～10歳	477	3.76	9.82
10代	485	3.83	13.65
20代	908	7.16	20.81
30代	897	7.08	27.89
40代	851	6.71	34.60
50代	1529	12.06	46.67
60代	1952	15.40	62.07
70代	2634	20.78	82.85
80代	1815	14.32	97.17
90代	354	2.79	99.96
100歳以上	5	0.04	100
欠損値	14		
合計	12689		

表 B7. 入院の原因となった主たる病名 ICD-10 (上位抜粋)

ICD-10	病名	度数	有効パーセント	累積パーセント
I63	脳梗塞	696	5.62	5.62
I61	脳内出血	574	4.64	10.26
I21	急性心筋梗塞	571	4.61	14.87
I50	心不全	429	3.46	18.33
S06	頭蓋内損傷	395	3.19	21.52
I46	心停止	336	2.71	24.24
J18	肺炎, 病原体不詳	304	2.46	26.69
I60	くも膜下出血	291	2.35	29.04
A09	感染症と推定される下痢及び胃腸炎	281	2.27	31.31
I20	狭心症	269	2.17	33.49

表 B8. APACHE II スコアの分布

	度数	有効パーセント	累積パーセント
0~4	1	0.0	0.0
5~9	23	0.4	0.4
10~14	82	1.4	1.8
15~19	317	5.3	7.1
20~24	634	10.6	17.7
25~29	874	14.6	32.3
30~34	1112	18.6	50.9
35 以上	2937	49.1	100
欠損値	6709		
合計	12689		

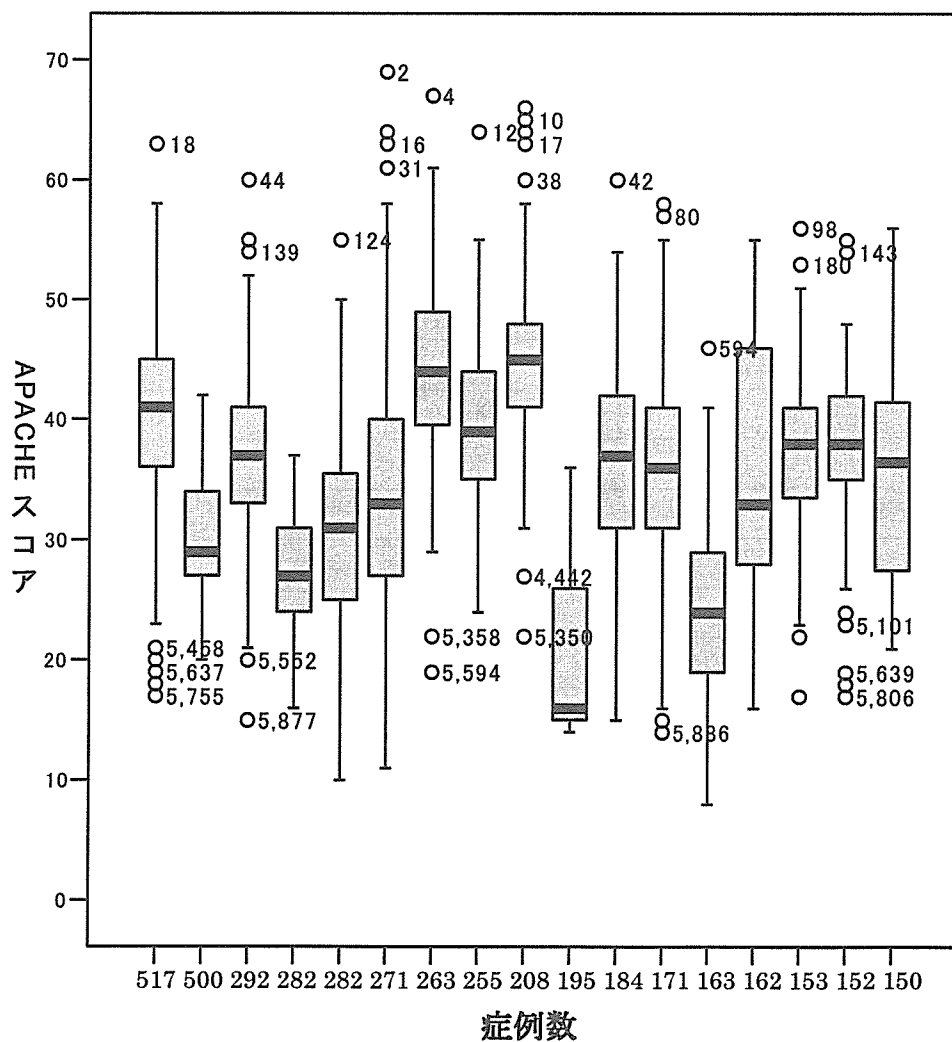


図 B2. 症例数 150 例以上の施設における APACHE II スコア

表 B9. 頭部最大 AIS の分布

頭部最大 AIS	度数	有効パーセント	累積パーセント
0	696	56.0	56.0
1	107	8.6	64.7
2	96	7.7	72.4
3	133	10.7	83.1
4	101	8.1	91.2
5	60	4.8	96.1
6	19	1.5	97.6
9	30	2.4	100
欠損値	11447		
合計	12689		

表 B10. 顔面最大 AIS の分布

顔面最大 AIS	度数	有効パーセント	累積パーセント
0	870	82.7	82.7
1	97	9.2	91.9
2	67	6.4	98.3
3	7	0.7	99.0
4	3	0.3	99.2
5	0	0.0	99.2
6	0	0.0	99.2
9	8	0.8	100
欠損値	11637		
合計	12689		

表 B11. 胸部最大 AIS の分布

胸部最大 AIS	度数	有効パーセント	累積パーセント
0	816	74.2	74.2
1	45	4.1	78.3
2	48	4.4	82.6
3	105	9.5	92.2
4	54	4.9	97.1
5	22	2.0	99.1
6	7	0.6	99.7
9	3	0.3	100
欠損値	11589		
合計	12689		

表 B12. 腹部最大 AIS の分布

腹部最大 AIS	度数	有効パーセント	累積パーセント
0	867	82.6	82.6
1	34	3.2	85.8
2	82	7.8	93.6
3	38	3.6	97.2
4	18	1.7	99.0
5	8	0.8	99.7
6	0	0.0	99.7
9	3	0.3	100
欠損値	11639		
合計	12689		

表 B13. 四肢最大 AIS の分布

四肢最大 AIS	度数	有効パーセント	累積パーセント
0	639	50.0	50.0
1	105	8.2	58.2
2	267	20.9	79.1
3	228	17.8	96.9
4	21	1.6	98.6
5	4	0.3	98.9
6	0	0.0	98.9
9	14	1.1	100
欠損値	11411		
合計	12689		

表 B14. 体表最大 AIS の分布

体表最大 AIS	度数	有効パーセント	累積パーセント
0	764	70.9	70.9
1	235	21.8	92.7
2	54	5.0	97.7
3	16	1.5	99.2
4	1	0.1	99.3
5	4	0.4	99.6
9	4	0.4	100
欠損値	11611		
合計	12689		

平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）
診断群分類を活用した医療サービスのコスト推計に関する研究（H16-政策-027）

分担研究報告書
（京都大学大学院医学研究科医療経済学分野）

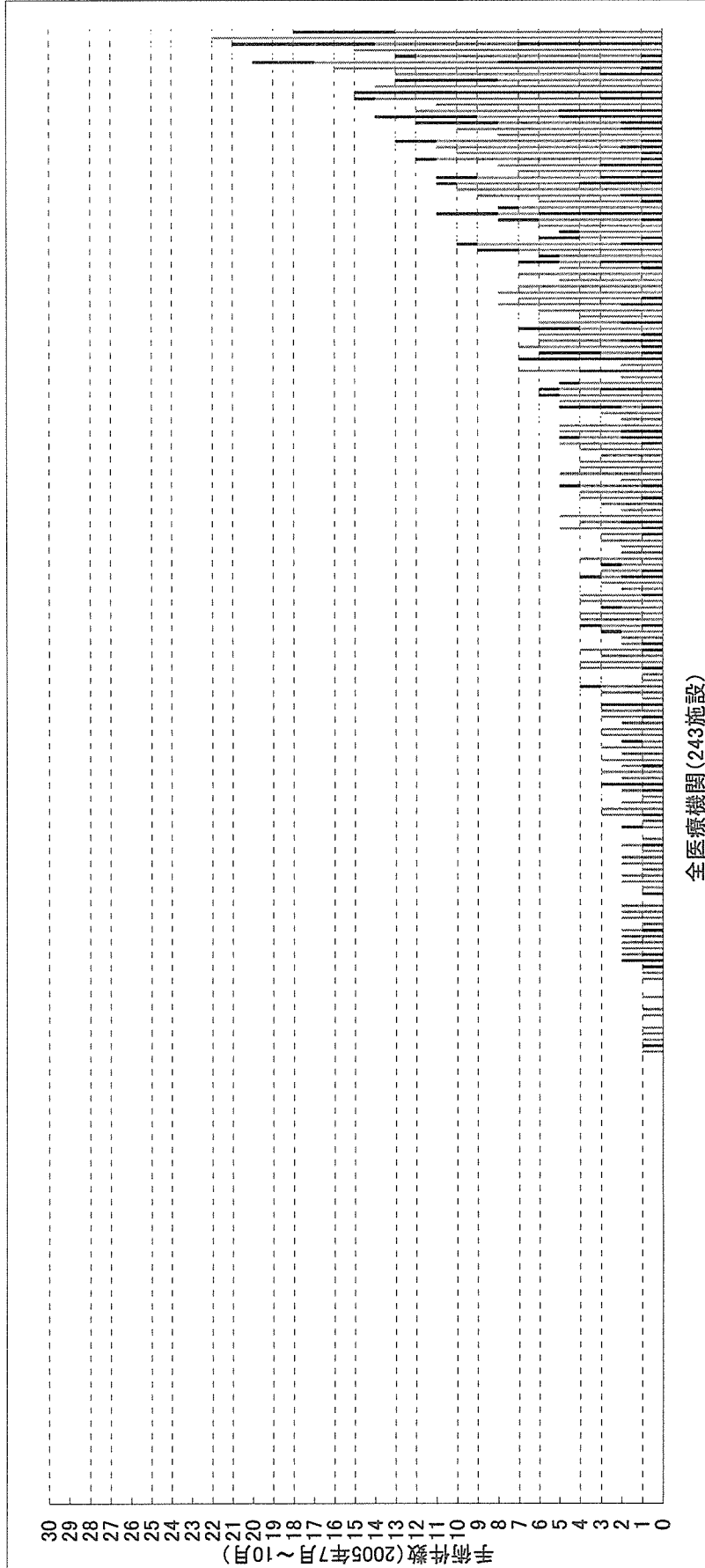
診断群分類データによる
診療活動のプロセス・アウトカム・コスト・機能等の指標化と
それらの多施設間比較に関する研究

附 図

注）結果の一部を抜粋したものです。
全結果は、別途、報告書の「別冊」に収載されています。

くも膜下出血・破裂脳動脈瘤のクリッピング・脳血管内手術の施行件数

分類名	解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル												
	0100203001	0100203002	0100203101	0100203102	手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90
くも膜下出血、破裂脳動脈瘤	脳動脈瘤流入血管クリッピング等の件数:JCS30以上		238		1.3	1.7	0	11	0	0	0	1	2	4	5
	脳血管内手術件数:JCS30以上		86		0.7	1.3	0	7	0	0	0	0	1	3	3
	脳動脈瘤流入血管クリッピング等の件数:JCS30未満		624		2.7	3.3	0	22	0	0	0	2	4	7	10
	脳血管内手術件数:JCS30未満		135		1.0	1.6	0	10	0	0	0	0	1	3	4



【図の説明】

全医療機関 (243施設)

■ : 脳血管内手術: JCS30未満[DPC手術コード:01]
 ■ : 脳動脈瘤流入血管クリッピング等: JCS30未満[DPC手術コード:02]

■ : 脳血管内手術: JCS30以上[DPC手術コード:01]
 ■ : 脳動脈瘤流入血管クリッピング等: JCS30以上[DPC手術コード:02]

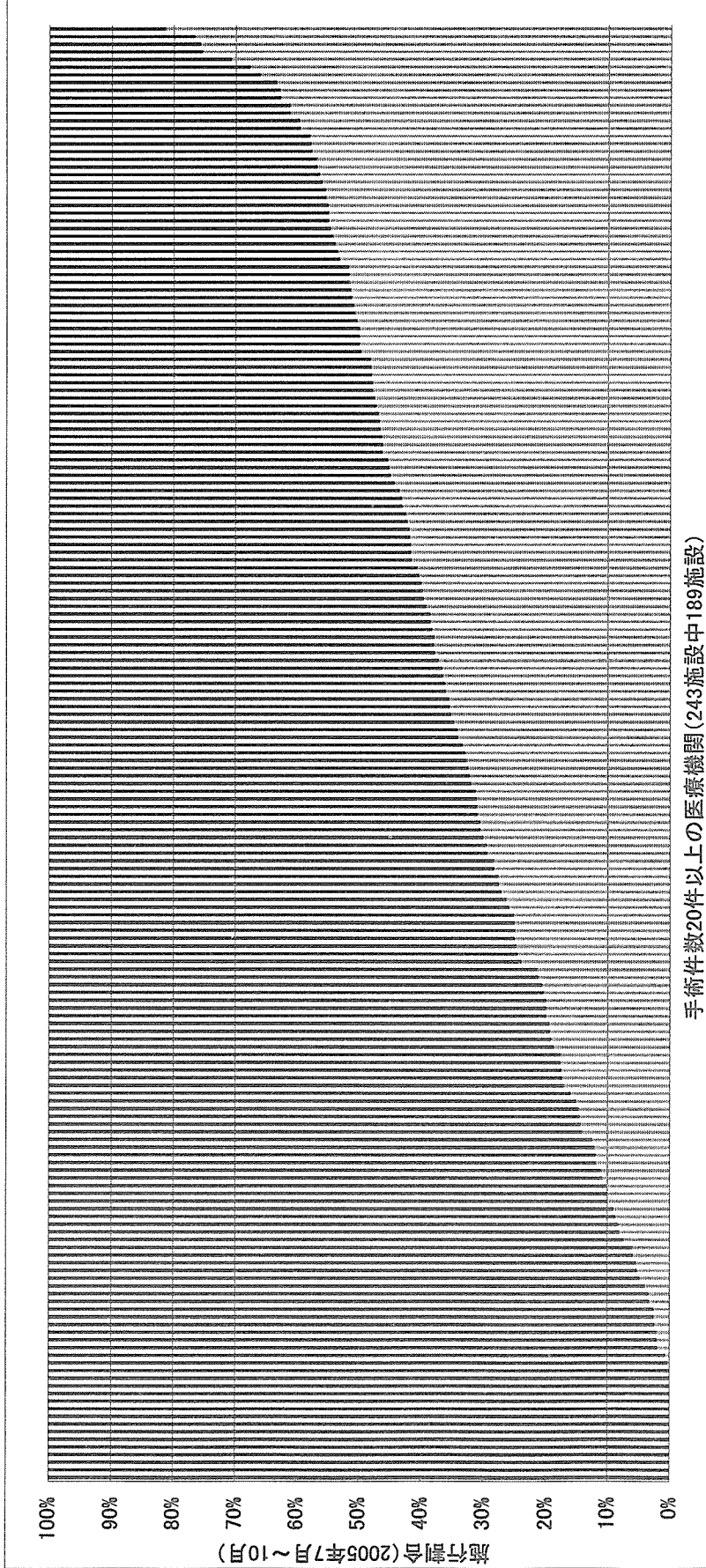
【コメント】

243施設中169施設(70%)において、くも膜下出血・破裂脳動脈瘤症例に対するクリッピング手術または脳血管内手術が施行されていた。全手術症例のうち80%はクリッピング手術で、脳血管内手術症例は20%に留まっていた。脳血管内手術の実施件数は少なく(実施件数の中央値=0件)、施行症例が4か月間で5件以上あった施設は全体のわずか5%であった。

白内障、水晶体の疾患の治療内訳(N = 18,193)

解析対象DPC番号の範囲 0201103

分類名	解析内容	パーセンタイル										
		平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
白内障、水晶体の疾患	片側手術が施行された症例	70%	21%	19%	100%	38%	44%	53%	68%	88%	100%	100%
	両側手術が施行された症例	30%	21%	0%	81%	0%	0%	12%	32%	47%	56%	62%



手術件数20件以上の施設を対とした
手術件数20件以上の医療機関(243施設中189施設)

【図の説明】

手術件数20件以上の施設を対とした

：両側手術の施行割合 [DPC14桁目:1]

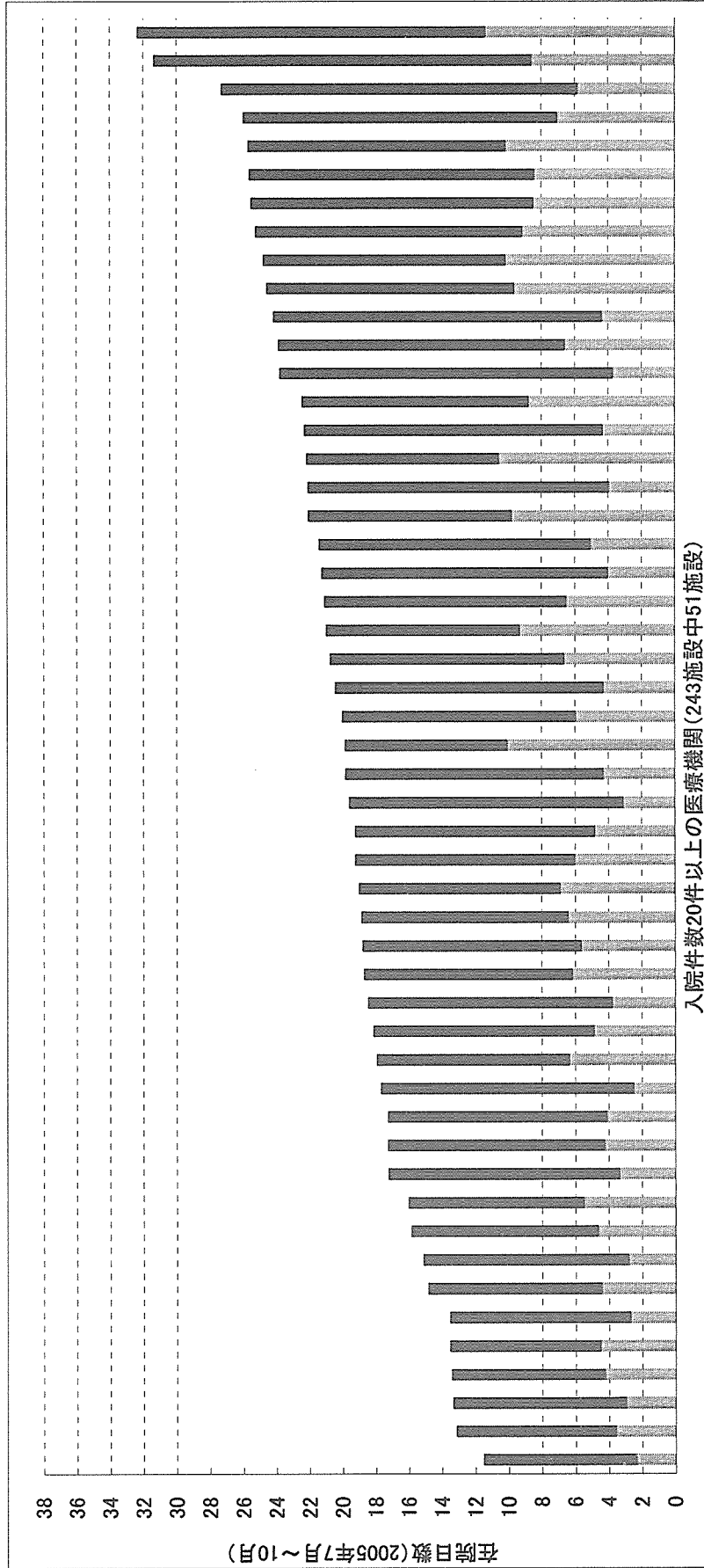
：片側手術の施行割合 [DPC14桁目:0]

【コメント】

- ・両側手術の手術件数は全手術件数の3割を占めており、片側手術は7割を占めていた。
- ・白内障、水晶体の疾患の手術件数と両側・片側の割合に、相関は見られなかった。

肺の悪性腫瘍手術施行例における平均在院日数 (N = 1,617)

分類名	解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル										
	0400403x01 / 0400403x02	0400403x02 / 0400403x04	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
肺の悪性腫瘍			20.3	4.5	11.5	32.4	13.4	13.6	17.5	19.9	23.1	25.7	26.7
在院日数			14.4	3.4	9.0	22.8	9.4	10.4	11.9	14.1	16.5	19.0	20.6
術後在院日数			5.9	2.5	2.3	11.4	2.8	3.1	4.2	5.5	7.7	9.8	10.1
術前在院日数													



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数20件以上の施設を解析対象とした。

■ : 術前在院日数

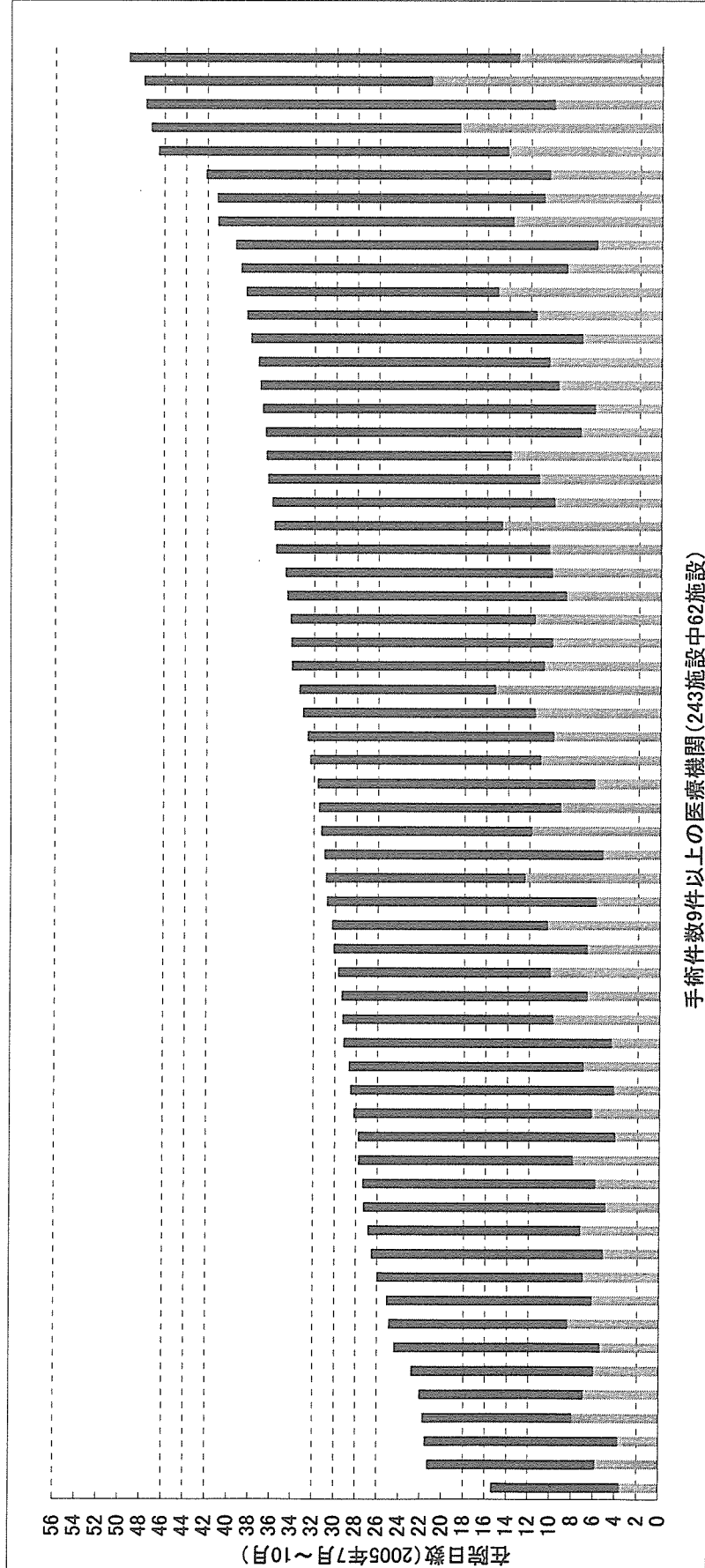
■ : 術後在院日数

【コメント】

- ・肺の悪性腫瘍の平均在院日数が10～15日程度の医療機関も存在していた。
- ・外れ値下位2.5%未満に62件が相当したが、そのうち11件と8件がそれぞれ1施設で占められていた。

狭心症・慢性虚血性心疾患の冠動脈バイパス術施行症例における平均在院日数(N = 1,062)

分析対象DPO番号の範囲	パーセンタイル											
	0500503x02 / 0500503x03	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
狭心症/慢性虚血性心疾患における冠動脈バイパス術施行症例	0500503x02 / 0500503x03	32.7	7.1	15.4	49.3	21.8	24.5	27.9	32.0	36.8	41.1	47.2
分類名	解析内容	23.6	5.3	11.8	37.9	15.5	17.9	19.7	23.1	26.6	30.7	32.4
	在院日数	9.1	3.6	3.6	21.2	4.2	5.2	6.1	8.9	10.9	13.8	15.0
	術後在院日数											
	術前在院日数											



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数上位25% (9件以上) の施設を解析対象とした。

■: 術前在院日数

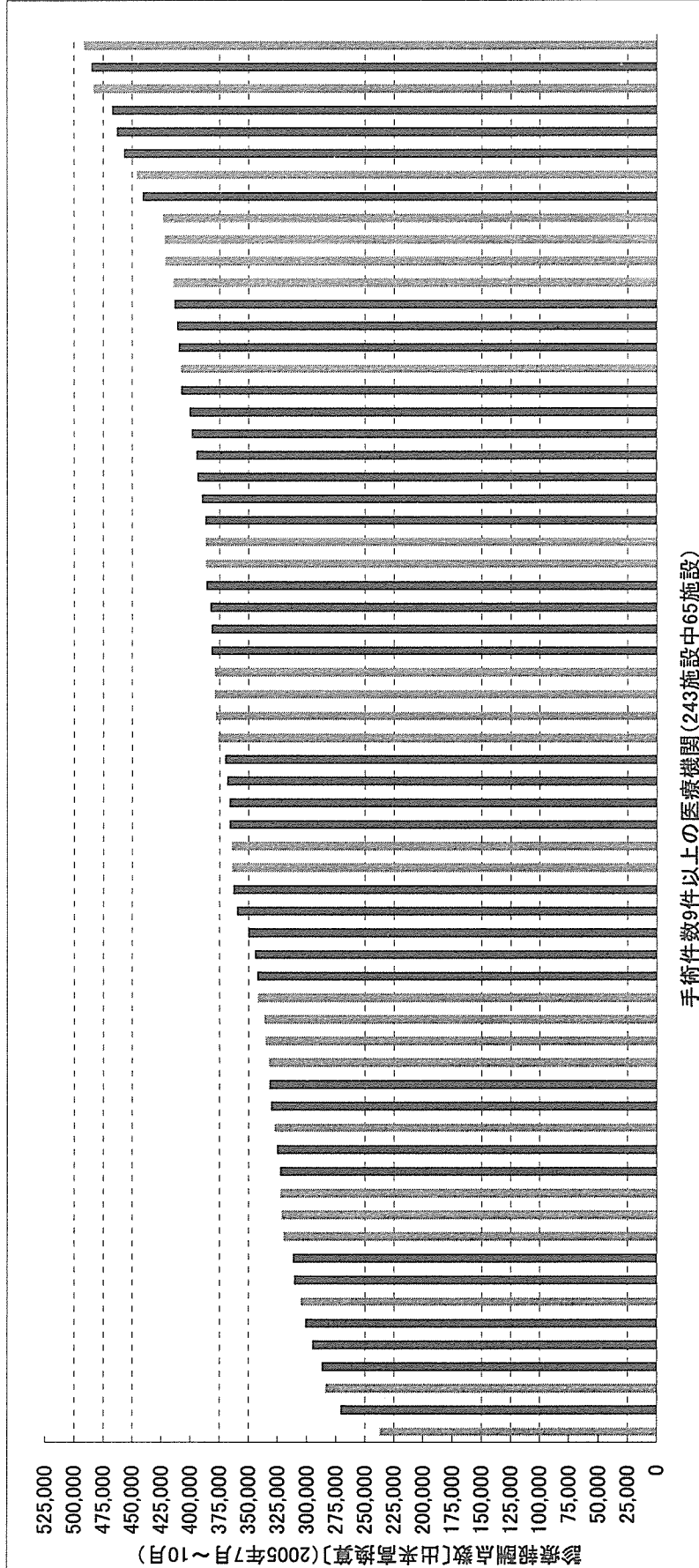
■: 術後在院日数

【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、件数で上位25%にあたる手術件数9件以上の62施設を解析対象とした。術前在院日数の中央値は約9日、一部ではあるが術前在院日数が3週間を超える施設もあり、在院日数の分布には施設間で大きなバラツキがあった。また、外れ値下位2.5%未満に24件が相当したが、そのうち13件と4件がそれぞれ1施設で占められていた。

狭心症・慢性虚血性心疾患の冠動脈バイパス術施行症例における一入院当たり診療報酬点数〔出来高換算〕平均値(N = 1,078)

解析対象DPC番号の範囲		パーセンタイル										
0500503×02/ 0500503×03												
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
		狭心症/慢性虚血性心疾患における冠動脈バイパス術施行症例	診療報酬点数〔出来高換算〕	371,806	53,927	237,212	491,292	288,729	307,605	332,096	376,337	407,882
	特定機能病院(27施設)〔出来高換算総点数〕	370,094	58,295	237,212	491,292	290,517	314,291	330,480	376,337	411,450	432,233	472,031
	その他の参加病院(38施設)〔出来高制度の総点数〕	373,022	51,367	271,010	484,871	294,103	307,981	334,733	375,877	400,368	445,614	463,897



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数上位25%(9件以上)の施設を解析対象とした。単位は診療報酬点数である。

■:特定機能病院

□:その他の参加病院

【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、件数で上位25%にあたる手術件数9件以上の65施設を解析対象とした。全体的にみた1入院あたりの診療報酬は約37万点であるが、特定機能病院の平均値はその他の参加病院よりも0.3万点弱低額であった。

狭心症・慢性虚血性心疾患における経皮的冠動脈インターベンションの施行割合(N = 7,851)

分類名	パーセンタイル										
	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
狭心症/慢性虚血性心疾患	0%	1%	0%	7%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	2%
アテレクトミー施行割合	1%	3%	0%	14%	0%	0%	0%	0%	1%	4%	7%
経皮的冠動脈血栓切除術施行割合	19%	21%	0%	100%	2%	4%	7%	13%	22%	45%	71%
経皮的冠動脈ステント留置術施行割合	79%	21%	0%	100%	27%	54%	76%	86%	92%	95%	97%

解析対象DPC番号の範囲: 0500503x05/0500503x06/0500503x07/0500503x08

解析内容

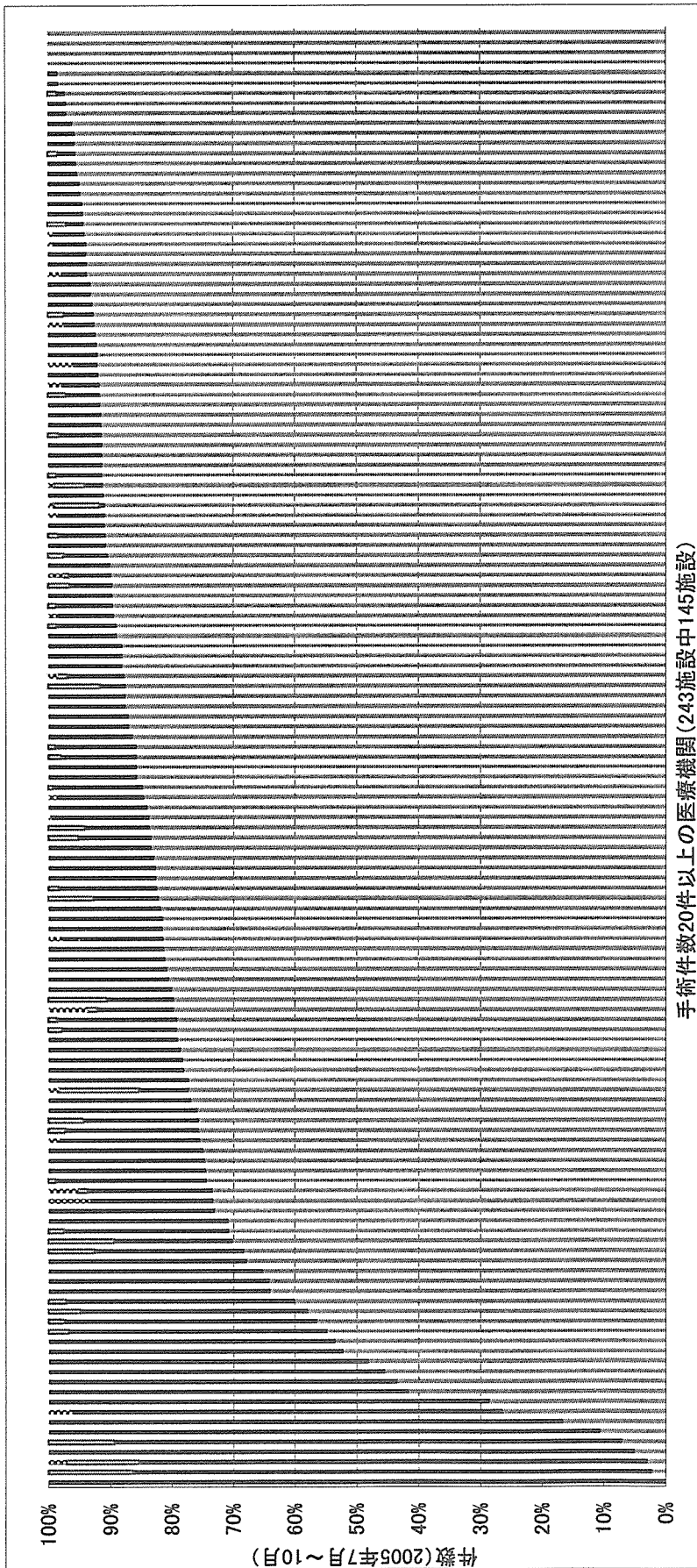
狭心症/慢性虚血性心疾患

アテレクトミー施行割合

経皮的冠動脈血栓切除術施行割合

経皮的冠動脈形成術施行割合

経皮的冠動脈ステント留置術施行割合



手術件数20件以上の医療機関(243施設中145施設)

【図の説明】

20件以上の施設を解析対象とした。

■: 経皮的冠動脈ステント留置術 [DPC手術コード: 05]

■: 経皮的冠動脈血栓切除術 [DPC手術コード: 06]

■: 経皮的冠動脈形成術 [DPC手術コード: 08]

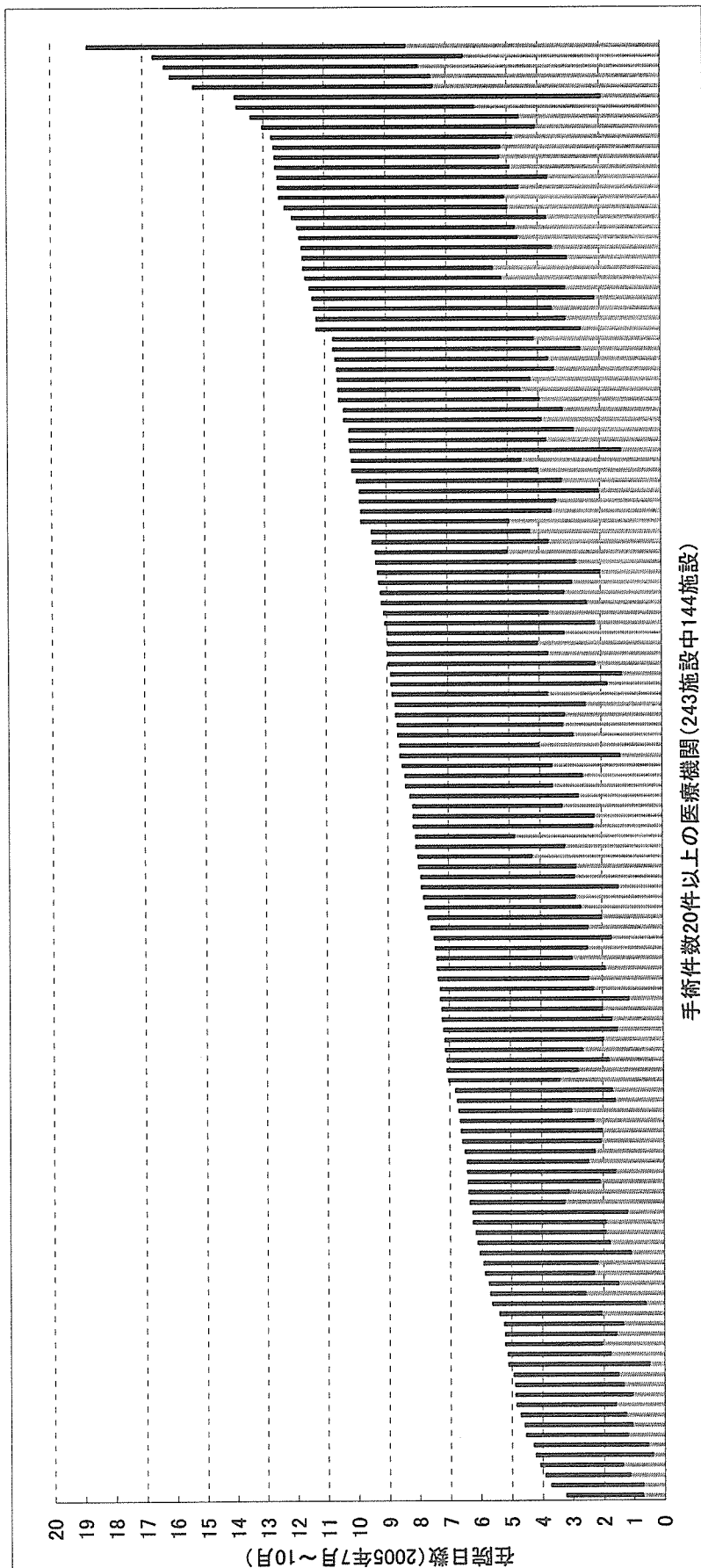
■: アテレクトミー [DPC手術コード: 07]

【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、手術件数20件以上の145施設を解析対象とした。この解析では、全体的にはステント留置術の選択が主流(全体の79%)で、次いで経皮的冠動脈形成術(全体の19%)の順であった。狭心症・慢性虚血性心疾患では、急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞、再発性心筋梗塞よりもステント留置術の選択が約6%少なく、アテレクトミーの選択も平均値で5%少なかった。

狭心症・慢性虚血性心疾患の経皮的冠動脈インターベンション施行症例における平均在院日数(N = 7,632)

分析対象DPCO番号の範囲	パーセンタイル										
	05	10	25	50	75	90	95				
0500503x05、0500503x06、0500503x07および0500503x08	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
狭心症/慢性虚血性心疾患におけるPCI施行症例	8.7	2.9	3.3	18.8	4.6	5.2	6.6	8.5	10.4	12.5	13.4
在院日数	5.8	1.8	2.5	12.0	3.3	3.5	4.4	5.5	7.1	8.2	8.8
術後在院日数	2.9	1.5	0.4	8.3	1.1	1.3	1.9	2.8	3.7	4.9	5.2
術前在院日数											



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、20件以上の施設を解析対象とした。

■ : 術前在院日数

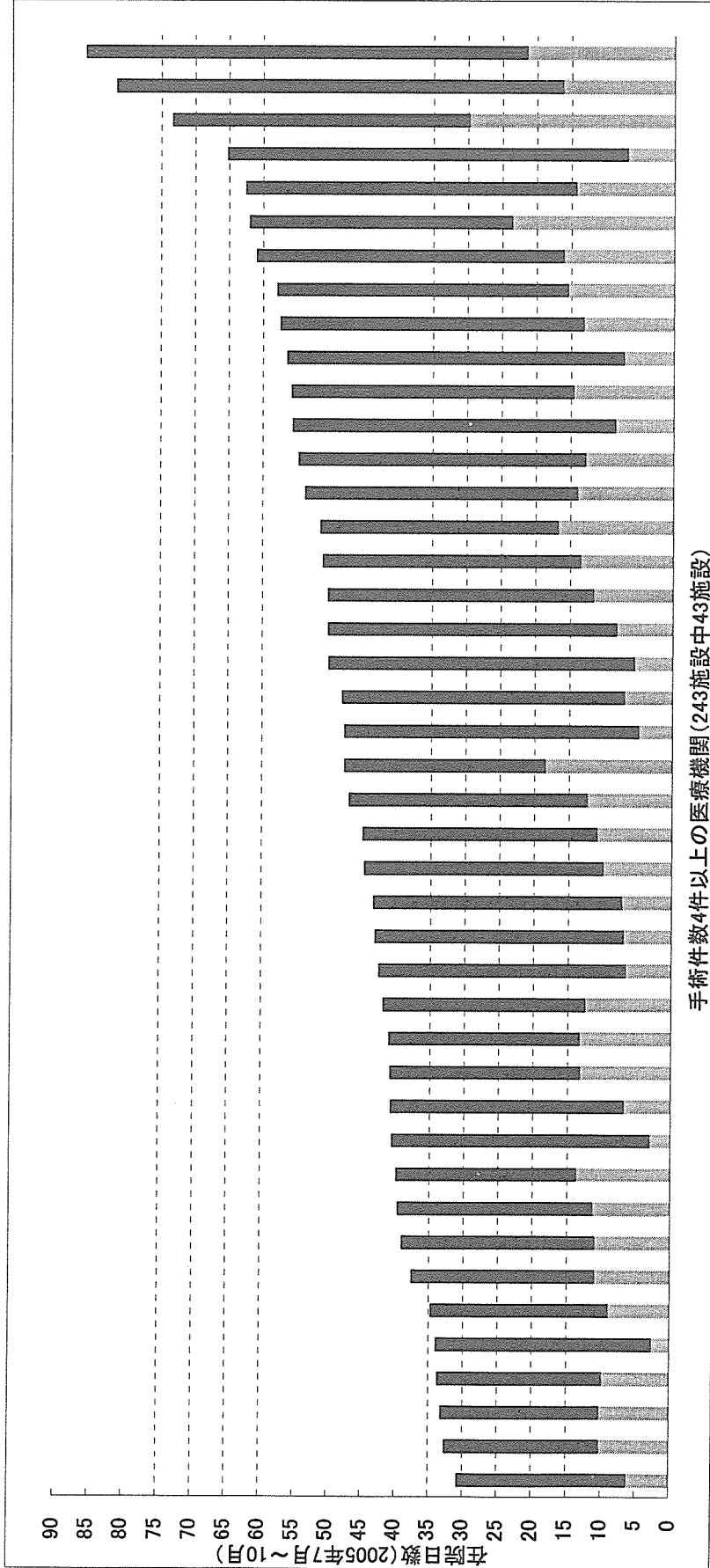
■ : 術後在院日数

【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、件数で上位25%にあたる手術件数20件以上の144施設を解析対象とした。術前在院日数の中央値は2.8日、最長の施設でも術前在院日数は8日間であり、術前在院日数の分布は施設間でバラツキが少なかった。

食道の悪性腫瘍に対し手術を施行した症例における平均在院日数(N = 398)

分類名	0600103x01および0600103x02および0600103x04および0600103x05											
	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
食道の悪性腫瘍	在院日数	49.1	12.4	30.8	86.0	33.3	34.2	40.7	47.9	55.8	62.5	72.6
	術後在院日数	37.5	10.2	22.5	65.3	23.9	25.9	28.9	36.3	42.8	48.1	57.6
	術前在院日数	11.6	5.3	2.6	29.8	4.9	6.3	7.3	11.0	13.8	16.6	21.1



手術件数4件以上の医療機関(243施設中43施設)

【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数上位25%(4件以上)の施設を解析対象とした。

■ : 術前在院日数

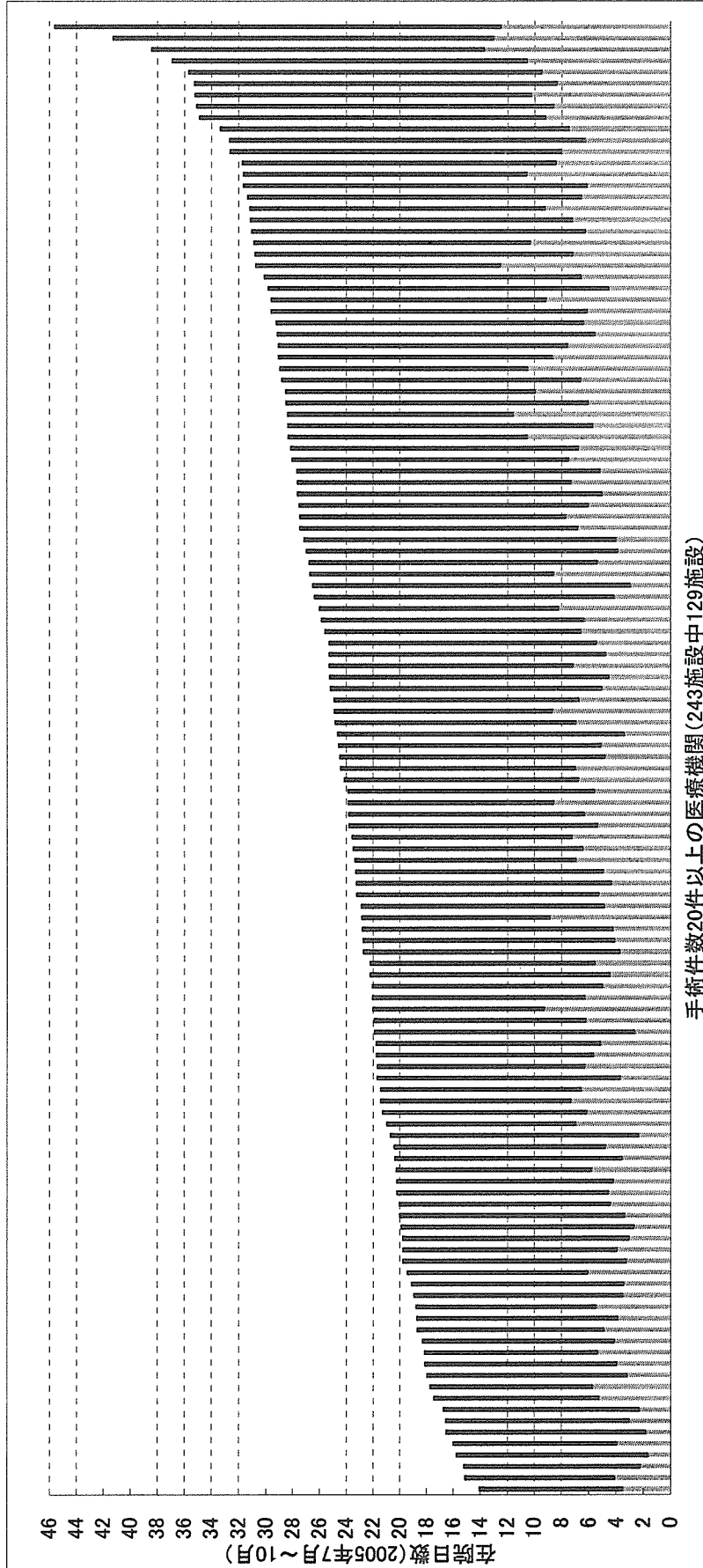
■ : 術後在院日数

【コメント】

・食道の悪性腫瘍手術の平均在院日数には、医療機関でバラツキが見られた。

胃の悪性腫瘍に対し手術を施行した症例における平均在院日数(N = 5,193)

分類名	解析対象DPC番号の範囲										パーセンタイル										
	0600203x01	0600203x02	0600203x03	0600203x04	0600203x05	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95					
胃の悪性腫瘍	解析内容																				
	在院日数										25.1	5.7	14.1	45.7	16.7	18.3	21.0	24.5	28.6	31.7	35.2
	術後在院日数										19.0	4.2	10.7	33.2	12.9	14.1	15.8	18.3	22.0	24.8	26.2
術前在院日数										6.1	2.4	1.6	13.7	2.8	3.4	4.3	6.0	7.3	9.3	10.5	



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数20件以上の施設を解析対象とした。

■ : 術前在院日数

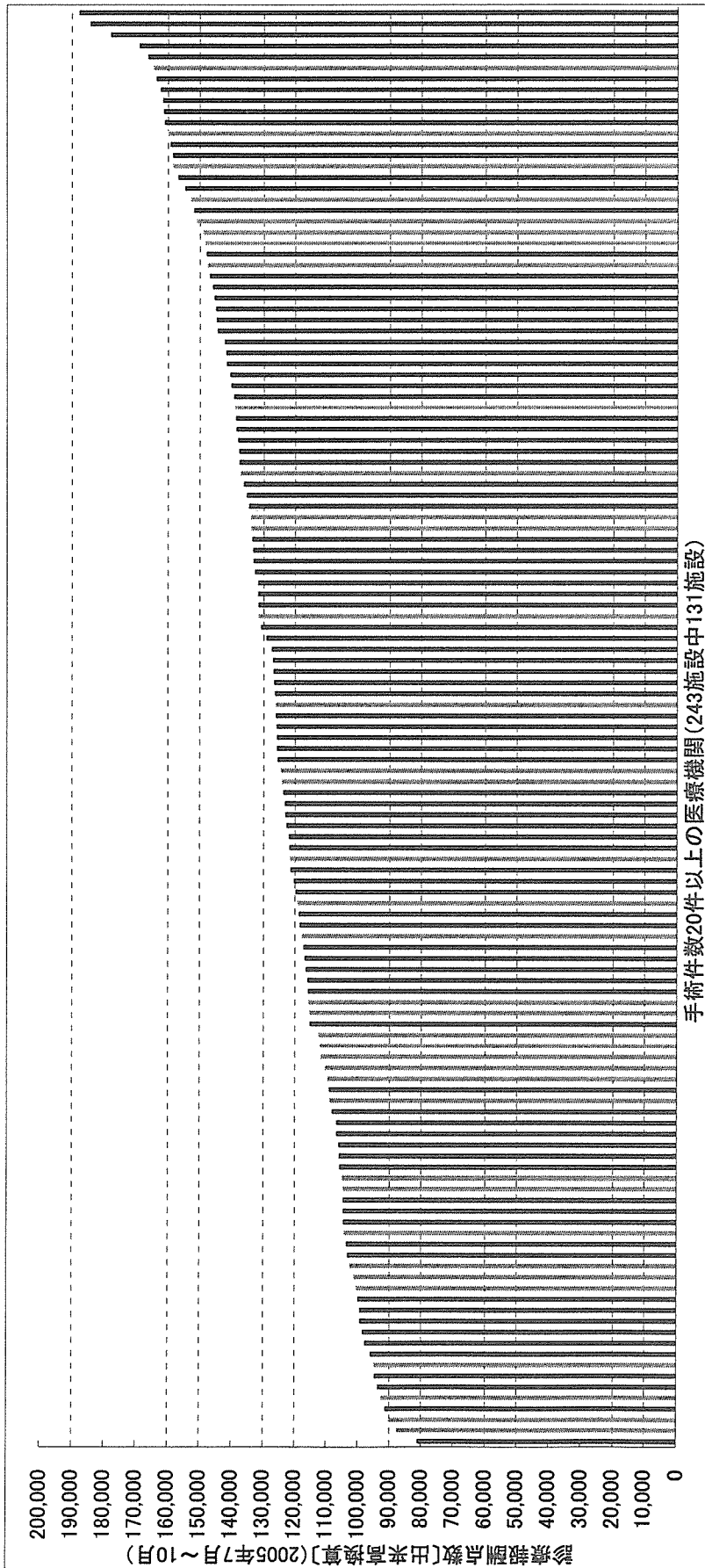
■ : 術後在院日数

【コメント】

- ・胃の悪性腫瘍の平均在院日数は、医療機関でバラツキが見られた。
- ・外れ値下位2.5%未満に114件が相当したが、そのうち14件と11件と9件がそれぞれ1施設で占められていた。

胃の悪性腫瘍に対し手術を施行した症例における一入院当たり診療報酬点数〔出来高換算〕平均値(N = 5,191)

分類名	解析対象DPC番号の範囲										解析内容											
	0600203x01および0600203x02および0600203x03および0600203x04および0600203x05					パーセンタイル					平均値	標準偏差	最小値	最大値								
胃の悪性腫瘍											127,214	21,846	81,123	187,831	94,697	99,925	109,307	125,924	141,085	158,476	162,978	
診療報酬点数〔出来高換算〕											122,185	21,230	87,641	164,475	92,123	98,217	104,944	117,718	137,272	151,747	158,776	
特定機能病院(37施設)〔出来高換算総点数〕											129,194	21,878	81,123	187,831	97,169	100,915	115,839	126,918	141,761	160,561	164,559	
その他の参加病院(94施設)〔出来高制度の総点数〕																						



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、20件以上の施設を解析対象とした。単位は診療報酬点数である。

■：特定機能病院

■：その他の参加病院

【コメント】

・胃の悪性腫瘍の一入院当たり診療報酬点数〔出来高換算〕は、医療機関で2倍以上のパラッキが見られた。

